

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	地理学概論B(Introduction of Geography B)		授業コード	K004651
担当教員名	土居 晴洋		科目ナンバリングコード	
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	必修(地理学概論A・Bどちらかを必ず取得)	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	「地理学概論A」を合わせて履修することが望ましい。			
受講心得	講義において解説された事項について、普段の生活の中で確認するように努力する。また、適宜、課題を課すので、期限内に提出する。			
教科書				
参考文献及び指定図書				
関連科目	地理学概論A, 地誌学			

授業の目的	地理情報システムをはじめとする、さまざまな情報処理の技術は、現代社会においてさまざまな場面で利用されており、人文地理学のみならず、学校教育においても、その積極的な利用が図られるべきである。しかし、安易な利用や誤った利用は、逆効果を招きかねず、その利用は注意深くなされないといけない。本講義では、地理情報システムなどの概要を理解するとともに、適切に利用するための技術を身につけ、さらに学校教育における応用の可能性を探る。□
授業の概要	学校教育の現場では、既存の教科書や資料集などのみ依存することなく、教師自らが新たに情報を取得して、それを適切に加工し、提示することが必要である。統計データのグラフ化をはじめ、日常的に使用しているデジタルカメラ、さらに現代では地理情報システムなど、学校教育の現場の教師をサポートする様々なノウハウが蓄積されている。本講義では、これらの概要を理解するとともに、自らがそれらの技能を身につけるために、具体的な作業を行っていく。□

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 地理情報システムとは	
第2週： 地理情報の種類	
第3週： 地理情報の所在と入手	
第4週： 地理情報の加工1	
第5週： 地理情報の加工2	
第6週： 主題図の作成1	
第7週： 主題図の作成2	
第8週： 写真と地理情報	

第9週： デジタルカメラによる写真撮影		
第10週： 写真の活用		
第11週： インターネットと地理情報		
第12週： インターネットの利用		
第13週： 地形図とその入手		
第14週： 旧版地形図の利用		
第15週： 学校教育における地理情報の利用		
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	日常的な事象を認識し、地理学的な関心を持つことができる。
【知識・理解】	地理学的な分析手法の基礎的知識を習得している。
【技能・表現・コミュニケーション】	地理学的な分析手法を理解し、利用することができる。
【思考・判断・創造】	地理学的な分析手法を用いて日常的な事象を考察することができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			5点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	20点		5点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	20点	20点	5点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	20点		5点	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	丁寧な作業の実施。技能の習得。
発表・その他 (無形成果)	積極的な授業への参加。